

栄政第620号
平成23年11月10日

横浜環状道路（圏央道）対策連絡協議会（連協）
会長 比留間 哲生 様

横浜市栄区長 尾仲 富士夫

「9月7日及び10月7日付貴文書に対する回答」について

9月7日及び10月7日付で貴会から出された文書に対して、次のとおり回答します。

[9月7日付文書への回答]

・質問1への回答

栄区では、様々な形で区民の皆さんの声をうかがう機会を確保しながら区政を進めているところです。自治会町内会や区内の各種団体に区の主要事業の説明等を行う合同研修会、地区センター等に職員が出向き、区民の皆さんからご意見をうかがう区づくり広聴、区内活動団体と区長が懇談する区政懇談会や無作為に区民の方を抽出し5年ごとに実施している区民意識調査など、様々な場や手段により区民の皆さんの声をお聞きしています。

この一環として、平成23年度の区民アンケートを実施しています。この区民アンケートは、区民意識調査で得られた区民ニーズについて、区民意識調査実施後に出てきた課題も含めながら、補完・継続的に把握し、今後の区政を進める基礎資料とするために、実施に関する決裁手続きを経て行っています。

・質問2への回答

質問1への回答と同様です。

・質問3への回答

今回の区民アンケートの問10につきましては、22年度区民意識調査の問16でお聞きしたような個々のニーズを踏まえながら、「第2期栄区地域福祉保健計画」の7つの基本方針の中で、区民の皆さんが期待するものをお聞きしたものであり、選択肢を取捨したものではありません。

なお、栄区では、平成23年8月に「本郷台駅周辺地区バリアフリー基本構想」を策定し、ベビーカーや車いす等でも移動しやすいまちづくりに向けて、事業者・行政が一体となった取り組みを進めているところです。

・質問4への回答

昨年度の区民ニーズを踏まえ、介護保険の情報提供は、窓口での取り組みをはじめ、区民の皆さんに対する情報提供を強化・実践しているところであり、今回のアンケートの選択肢は適正です。

・質問5への回答

質問1への回答と同様です。

・質問6への回答

質問1への回答と同様です。

・質問7への回答

22年度栄区民意識調査の集計方法として、複数回答が可能な設問については、回答者数で各選択肢が選択された数を割り返しています。数値は、回答者のうち、その選択肢を選んだものの割合を表したもので、集計方法は適正です。

[10月7日付文書への回答]

1. 栄区は区民意識調査の集計に当たりなぜ平成22年度だけ間違った集計をしたのか？という
ことについての回答

22年度の区民意識調査の集計方法は、過去実施した17年度の区民意識調査及び区民アンケート調査同様に行っており、集計方法は適正です。

2. 平成23年度の調査業務の委託は平成22年度と同じ業者か、それとも別の業者か？
いうことについての回答

調査業務の委託については、現在未定ですが、集計は同様な方法で行う予定です。

3. 南線についての設問のあり方についての回答

調査対象者は、調査結果の客観性を重視するため、本市の住民基本台帳等から無作為に抽出しています。また、横浜環状南線に関する質問は、「道路・交通環境」の項目に1問用意しましたが、回答では広く選択肢を設定しました。このように栄区民意識調査は、区民の皆様のご意見を誘導するようなものではありません。客観性と公正性を確保して実施したものです。

4. 栄区は5年毎に3000人、1年毎に500人の区民を対象に意識調査を行ってきた。しかる
に平成22年度の3000人の翌23年には500人ではなく、1500人を対象としている。先例を
破ってこのようなやり方をした理由は何か？
ということについての回答

5年毎の区民意識調査の間に実施する区民アンケートにおいて、21年度は郵送1,000人に加え、区づくりカフェに参加した区民の方を対象に実施しました。アンケートのサンプル数については、毎年度の区政運営において、その都度適正に判断していくものと考えており、今年度は、区民意識調査の対象の半分で、21年度の回収サンプル数結果も踏まえ、1,500人としました。

以上